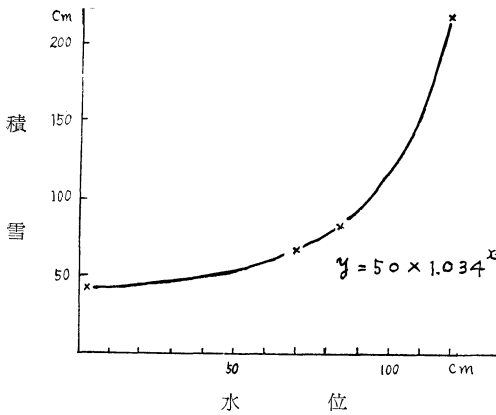


$$y = 50 \times 1.034^x$$

の如き指数的關係がある (第6図参照)



第6図 富士山の積雪 max. と水位 min. との関係

5 水位の年変化の成因

これ等のことによって水位の変化がなにによって起こるかについて考察するに、第一に富士山の積雪を、第二として降水を取り上げたい。

まず水位上昇から考えると、これは融雪がはじまるとともに水位の上昇がはじまり融雪量増大とともに急増しそれに加うるに降水量の増加(5~7月)が重複することによって水位の高極をもたらし、降水の増大によって高極部は維持されるが、その後融雪量の激減と、降水量も減ずるため水位は下降し10月の末よりは降水の一部は雪となり、さらに12月頃よりは富士山周辺(標高1500m以上)は、ほとんどが積雪として堆積するため水位はさ

らに低下し、そのうえ冬季の湧水期とあいまって2~3月には水位の最低を示すものと思われる(これにはもちろん水位として現われる経過時間をも考慮して)。

6 三島の地下水の利用について

以上のことから水の利用についても場合によって考慮がなされなくてはいけないと思われる。水量は絶対量においては豊富で心配はないが使用方法によっては昨年の如く楽寿園湧水が涸れることも考えられる。というのは地下水位が高極部にあるときの使用についてはかまわないが低極部の期間については工場等の使用量の多寡が水位に関係しないとは確言できない。

この時期の使用量が他期と同量の水量を使用したとしても年によっては(富士山に積雪の少ない年)最低水位を幾分でも下げることによって楽寿園湧水(とくにセリ沢)は湧水が止ることが考えられる。これを防ぐにはこの時期に水位と積雪を考慮して水の使用量を規正するか、あるいは高極部において自噴して放水状態の水を貯水することによって湧水期の使用を補うという方法もあると思われる。

7 むすび

これ等の調査は今後も続けて年変化の成因等を詳細に調べ三島市付近の水の利用についても計画することが必要であるように思う。終りにこの調査に種々ご便宜御教示いただいた三島市観光課、東洋レーヨン三島工場の職員の方々に厚くお礼申し上げる。

参考文献

- 1) 2) 1950……中央気象台 富士五湖の観測資料

国際交流委員会からのお知らせ

1. 梅雨に関する資料について

日中学術交流の具体的活動として、さきに「天気」誌上で発表しましたように、「天気」に掲載された最近の梅雨に関する論文を、中国気象学会宛に送付し、両国の梅雨に関する知識を深めたいと思っています。

去年から現在迄下記のような論文が集まりましたので理事長名の挨拶をつけて、中国気象学会宛に送付することにしました。

- 36.6 豪雨の定性的定量解析 (1962年7月号)
松本誠一、藤田敏夫、浅井富雄
- 夏季における大雨について (1962年11月号)
中島暢太郎
- 降雨セルの移動について (1962年11月号)
桜井兼市
- 豪雨の再現する時間間隔の度数分布特性と設計再現期間について (1962年11月号)
正務章

- 梅雨の長期変動 須田 建 (1963年4月号)
- 大気中の過飽和域について (1963年4月号)
光野 一
- 日本付近の 100mb の循環と (1963年6月号)
梅雨現象 今田 克

2. 中国気象学報の内容紹介にそいて

最近、中国気象学報が入手できるようになりました。色々興味ある論文もありますので、「天気」誌上にその要約を逐次のせていきたいと思ひます。

3. 中国学術使節団の来日について

日中友好協会からの連絡によりますと、今年の末に、数名程度の中国学術使節団が来日する可能性があるとのこと。気象学会としましては、先の大会決議もありますので、気象関係者を一名加えて欲しいという希望をのべておきました。いづれ、来日スケジュールが確定しましたら、講演会、滞在費負担、その他について、会員のご協力をお願いしたいと思ひます。